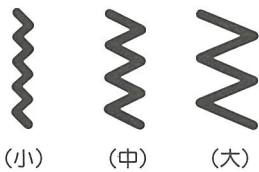


ジグザグぬい

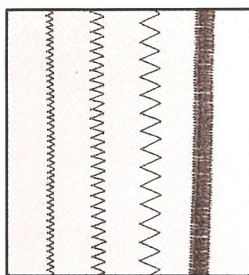
使う模様



使う押え



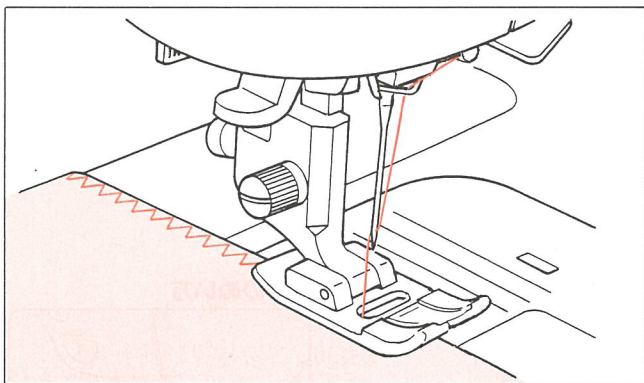
基本押え (A)



注意

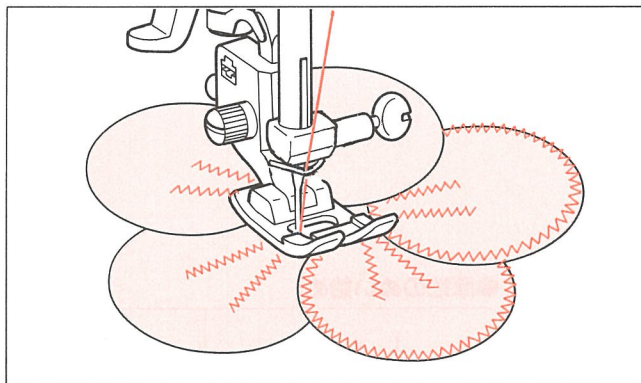
押えの交換のときは
電源スイッチを切ってください。

■裁ち目がりの場合



針は布端ぎりぎりのところへおとします。

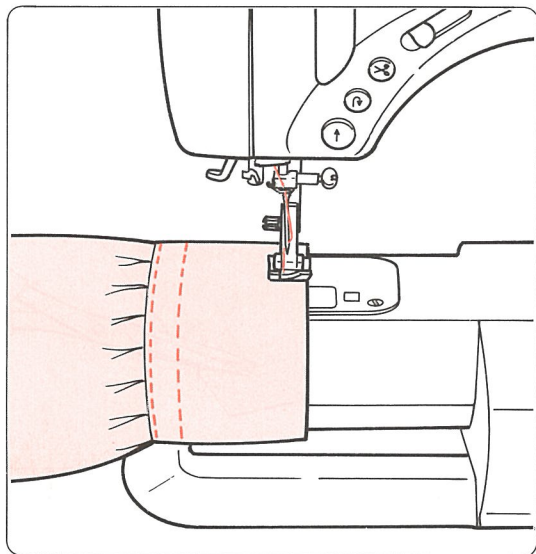
■アップリケの場合



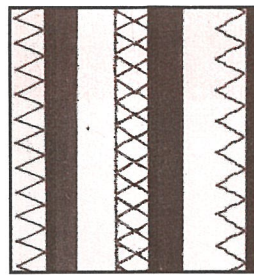
- ・カーブをぬうときはジグザグ模様(小)か(中)を選びぬい目を細かくします。
- ・針をアップリケ布の端より少し外側へおとします。

筒ぬい (フリーアーム)

カフスつけ、ノースリーブの見返しつけ、袖口、ズボンの裾など筒型部分をぬうのに大変便利です。

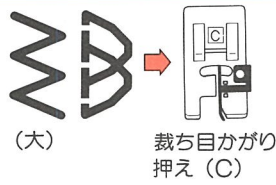
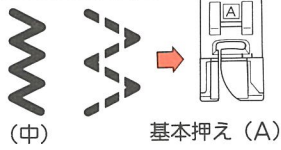


裁ち目かがり (縁かがり)



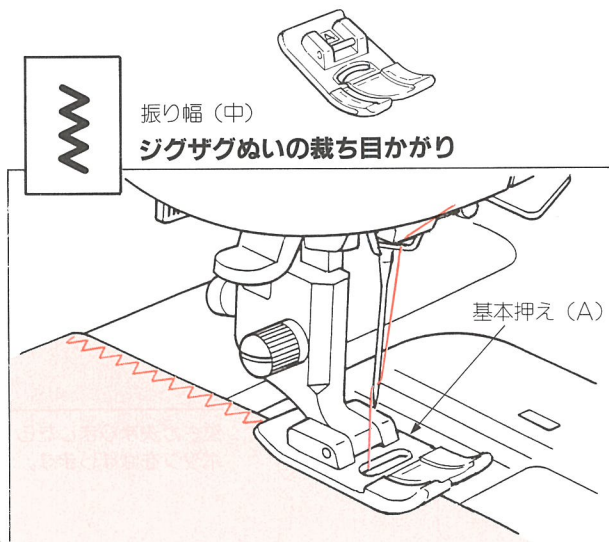
布地の裁ち目がほつれるのを防ぐために用います。

使う模様と押え

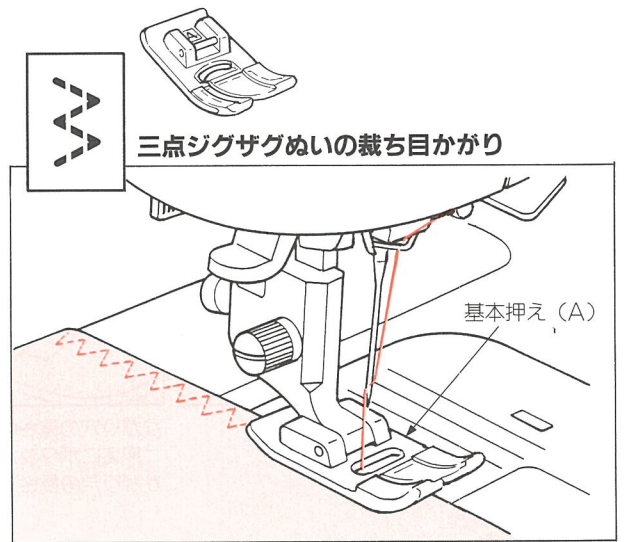


注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

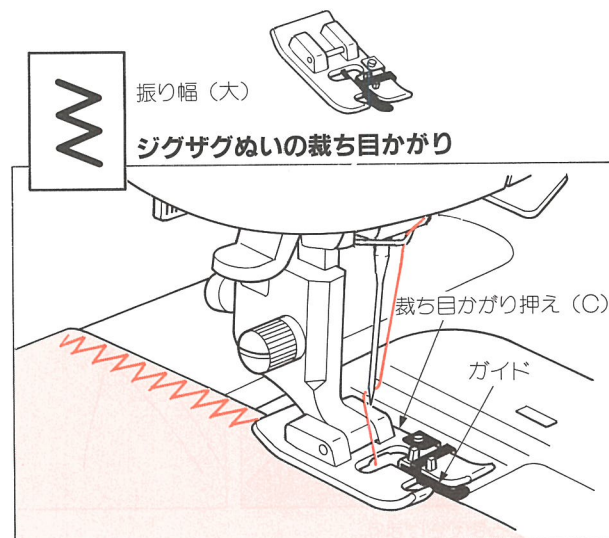
ご注意：裁ち目かがり押え(C)はジグザグ(大)と縁かがり模様だけに使用ください。その他の模様は押えに針がぶつかります。



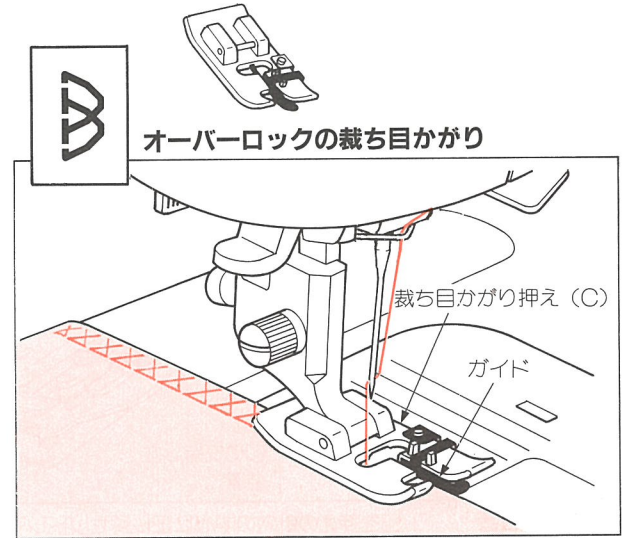
薄地の布で布端が丸まりやすい場合に使います。



ほつれやすい布、伸縮性のある布に利用します。



裁ち目のほつれ止めとして広範囲に利用できます。布端を押えのガイドにあてて、ぬいます。



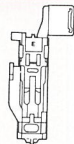
かがりぬいと本ぬいが同時にでき、ほつれやすい布や伸縮性のある布でぬいしろをわらなくてもよいものに適します。

両かん止め穴かがり・ハトメ穴かがり

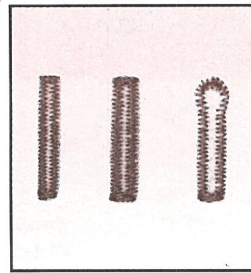
使う模様



使う押え



ボタン穴かがり押え (E)



注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



うすい布地で
Yシャツ、ブラウスなどの
小さいボタンに適します。



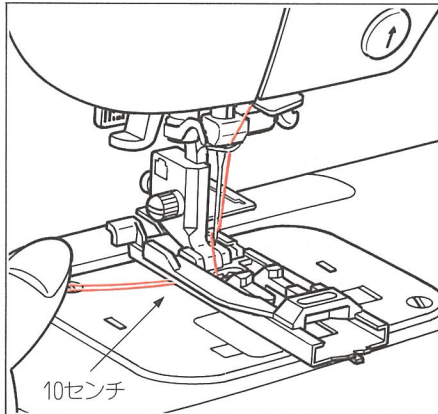
厚い布地で上衣などの
大きいボタンに適します。



上衣などの
大きいボタンに適します。

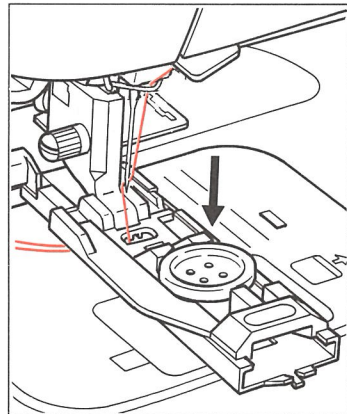
- ニット地（伸縮素材）は布地に芯地、又は不織布をはり、押え調節レバーを「よわい」にしてぬいます。
- 必ず ためしぬいをして、正しくぬえることを確認しましょう。

1 糸を横に出します

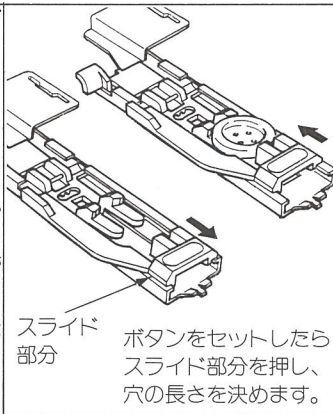


上糸を押えの下へくぐらせます。

2 一度押えを下げて、ボタンをセットします

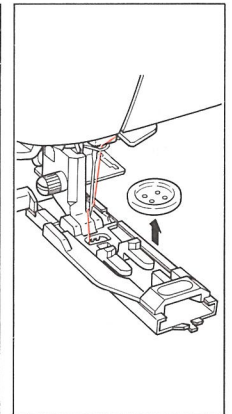


かがり穴の長さはボタンをセットするだけで自動的に決まります。
(押えにボタンがのらないときは、ボタンの直径+ボタンの厚みが、
かがり穴の長さです)。



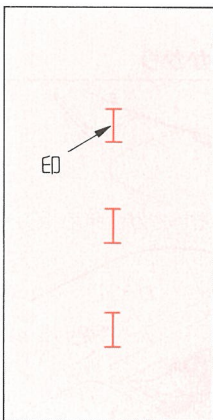
ボタンをセットしたら
スライド部分を押し、
穴の長さを決めます。

3 はずします



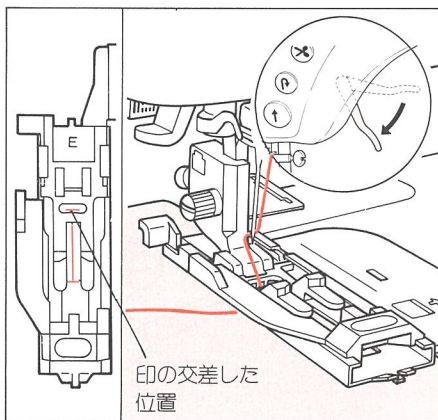
長さが決まりましたら
ボタンをはずします。

4 布地に印をつけます



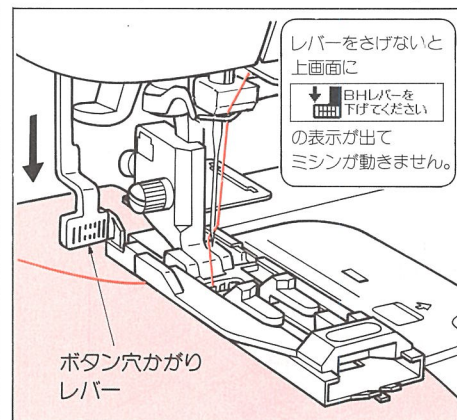
ボタン穴の位置
にチャコでI印
をつけます。

5 印に合わせて押えをさげます



印を押えの針穴の中心に正しくセットして、
押えをさげます。

6 ボタン穴かがりレバーをさげます



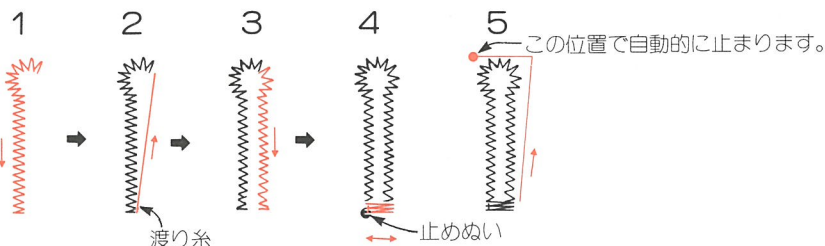
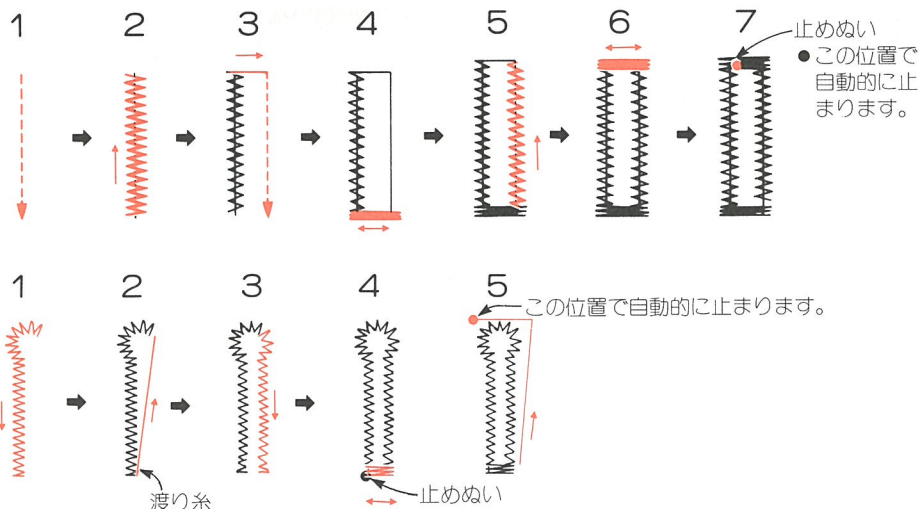
レバーを止まるところまでさげます。

7 ぬい速度を決めます

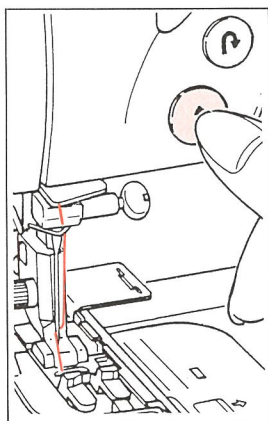


※ボタン穴の大きさをまちがえたり、途中で糸切れしたとき、ミシンを止めて模様選択キーをもう一度押しますと、最初からぬうことができます。

●自動ボタン穴かぎの ぬわれる順序

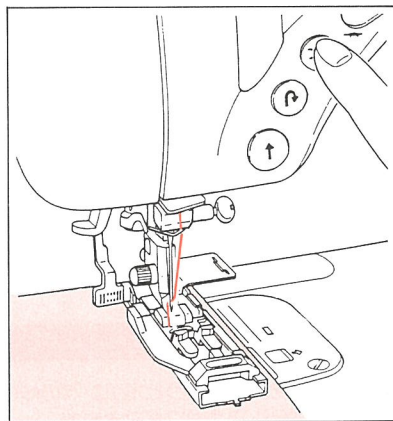


8 スタートさせます



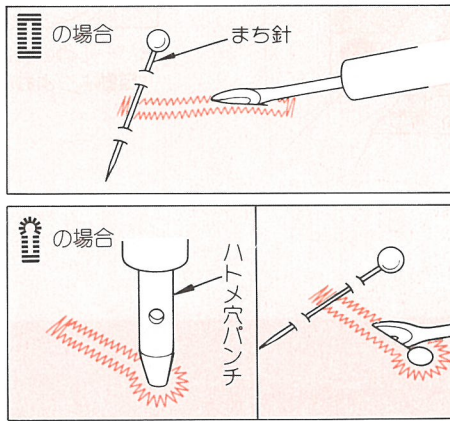
スタート・ストップスイッチを押します。

9 ぬい終わったら糸を切ります



糸切りボタンを押します。
※ボタン穴の2個目からは布地の次の印に合わせて押えをさげてぬうことができます。

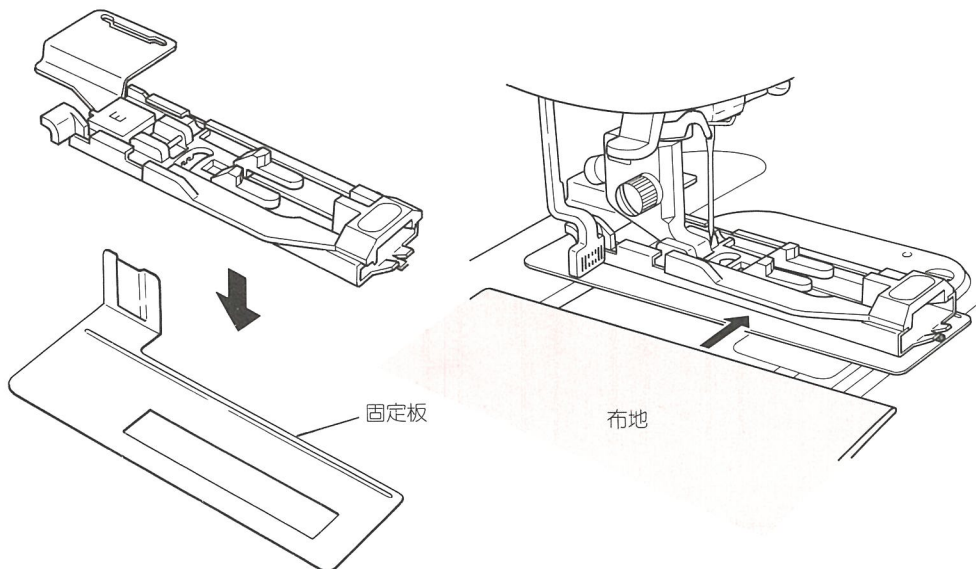
10 リッパーで穴をあけます



リッパーでぬい糸を切らないように中央の布地を切り開きます
かん止めの所にまち針をさしますと切りすぎがありません。

厚紙などを下に置いて、ハトメ穴パンチで穴をあけてから、リッパーを使ってください。

—薄地、段部近べんの ぬいにくいところに効果を発揮します。—



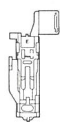
1. ボタン穴かぎ押えに固定板をセットしたまま、押えを取り付けます。
2. ボタンのセットや布地への印付けは前ページ参照。
3. 押えと固定板の間に布地を入れます。

自動ボタン穴かがり パールぬい

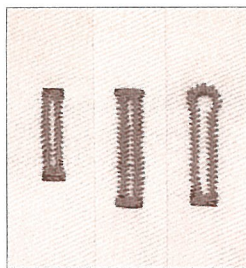
使う模様



使う押え



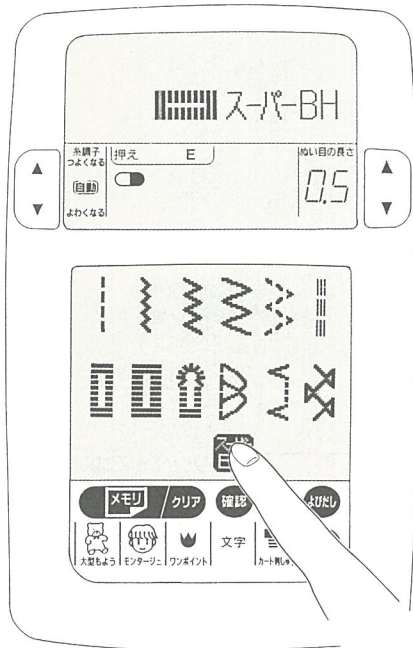
ボタン穴かがり押え(E)



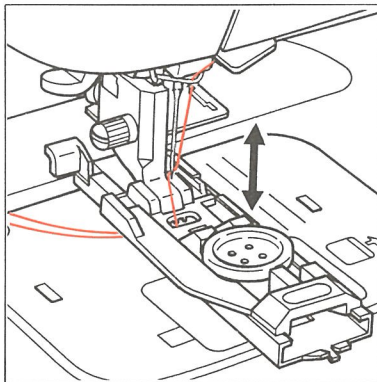
表布上で上糸と下糸の重なりが山となり、手ぬい風になります。

注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



- ボタン穴かがりを選び、**パールぬい** を押します。
ぬう順序は前ページの自動ボタン穴かがりと同じです。



※パールぬいするとき、古い糸など切れやすい糸は、糸調子を自動よりよわめにして下さい。

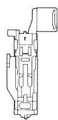
自動ボタン穴かがり 芯入りボタン穴かがり

芯糸を入れてぬうとボタン穴の伸びを防ぎ、丈夫なボタン穴かがりができます。
芯糸にはレース糸、穴糸などを使用します。

使う模様



使う押え

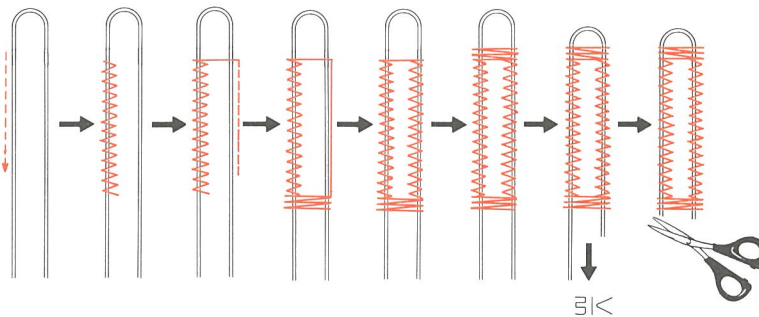
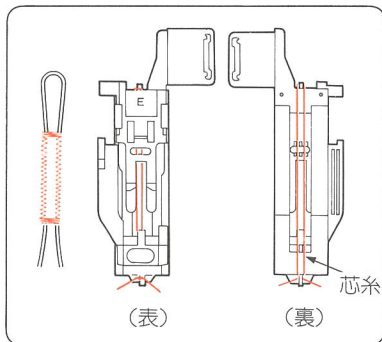


ボタン穴かがり押え(E)

注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

●芯入りボタン穴かがりの芯のかけ方



芯糸入りのボタン穴かがりをするときは、芯糸をボタン穴かがり押えの裏側の先端にひっかけて裏側の手前側を結びます。そのままボタン穴かがり押えを取りつけて穴かがりをすれば、芯糸入りのボタン穴かがりができます。

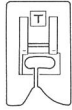
余分な芯糸は裏側に出して結んでから切ります。

しつけぬい

使う模様



使う押え



模様押え (T)



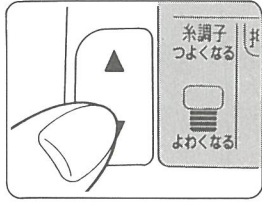


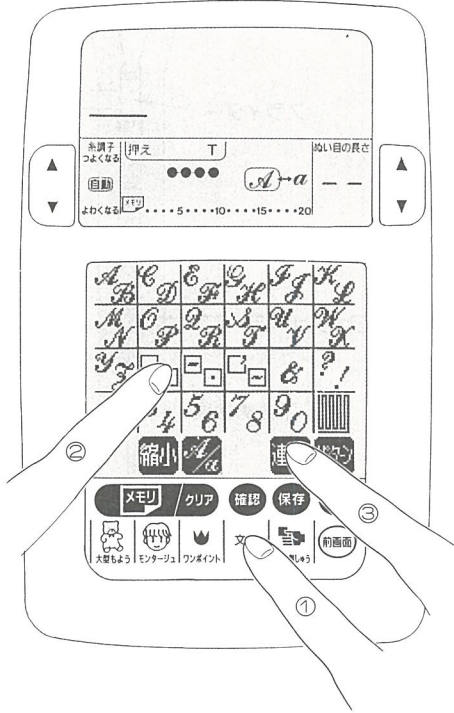
まつりぬいやファスナーつけなど、このしつけぬいをしますとあとの糸ぬきが簡単にできます。

※模様の選び方は43ページ参照。

注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1. 文字キーを押します。
2.  を押します。(上画面に  が表示されます)
3. **連続** を押します。(上画面に ●●●● が表示されます)
4. 糸調子をよわくします。 
5. 布地を入れてスタートさせます。

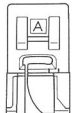


ストレッチステッチ 伸縮強化ぬい

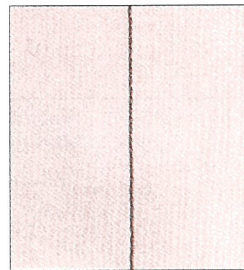
使う模様



使う押え



直線押え (A)



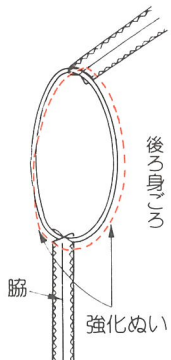
伸縮性のある布地や、刃がかかってほつれやすい部分などに使うとぬい目がしっかりします。

注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

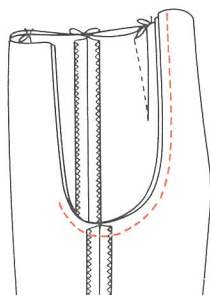
●袖つけ

後ろ袖や、袖下に力がかかりほつれやすいところに使います。



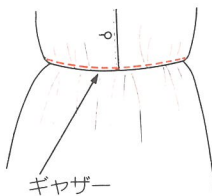
●パンツ類の股ぐり

二度ぬいするときに便利です。

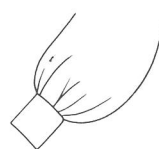


ぬい合わせる布の一方にギャザーやタック、プリーツなどが入っているとき(ウエストはぎ、カフスつけ、ヨークつけなど)使うと、ぬい目がしっかりとできあがります。

●ウエストはぎ



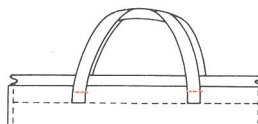
●カフスつけ



●ヨークつけ



●バック類



●ポケットつけ



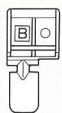
脇あきファスナーつけ

スカート、スラックス、ワンピースなどのあきの始末に用います。

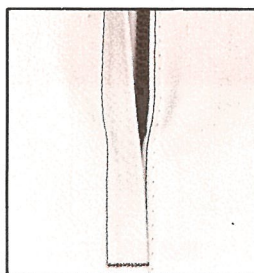
使う模様

----- 直線

使う押え



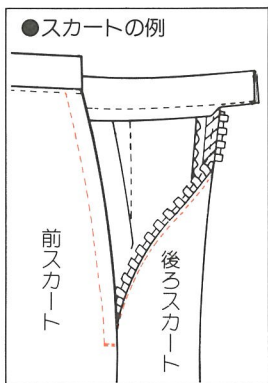
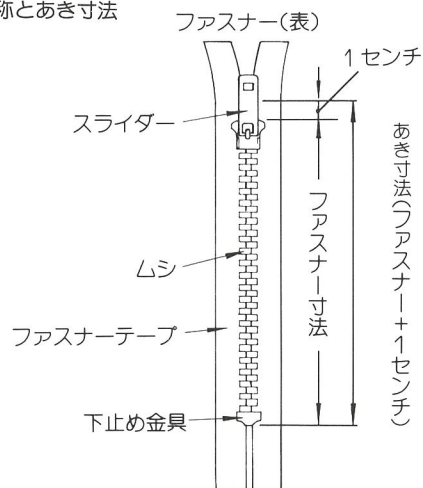
ファスナー押え (B)



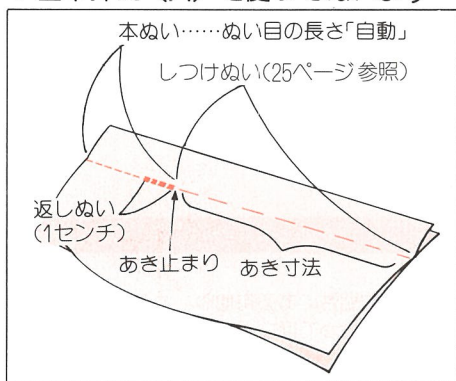
注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

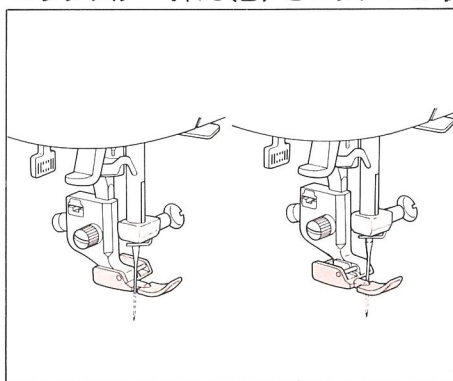
●ファスナーの名称とあき寸法



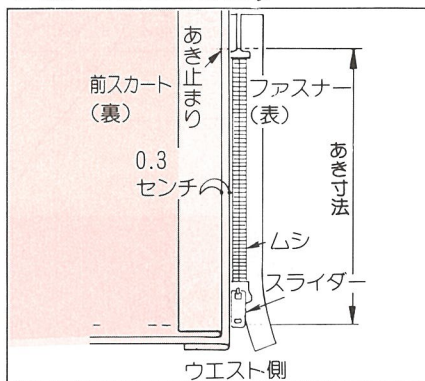
1 基本押え (A) を使ってぬいます



2 ファスナー押え (B) をセットします



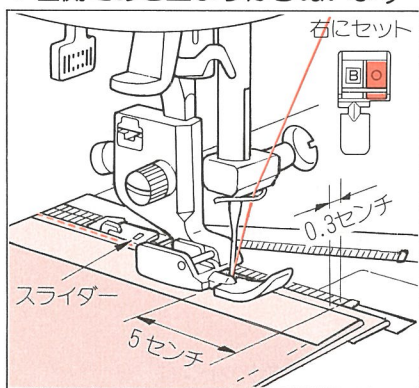
3 ぬいしろをわります



ファスナーの左側をぬうときは押えの右へセットします。右側をぬうときは、左へセットします。

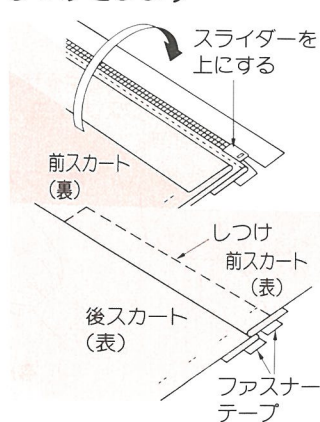
ぬいしろをわり、後ろスカートのぬいしろを0.3センチ出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をムシのきわにあてます。

4 左側をあき止まりからぬいます



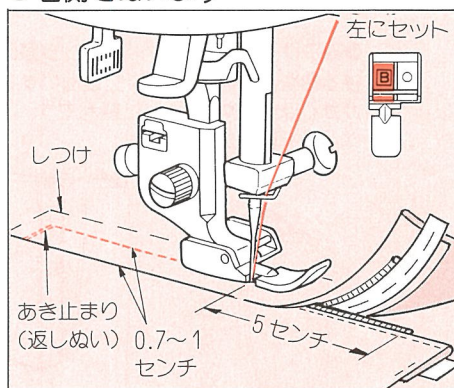
0.3センチ幅の中央をあき止まりからぬいます。手前5センチ位でミシンを止めて、スライダーを向こう側へさげて、端までぬいます。

5 前スカートをかえしてしつけをします



※布とファスナーテープを手の前でしつけて止めます。

6 あき止まりを返しぬいして、右側をぬいます



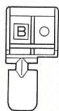
返しぬいしたあと、押えの左端をムシのきわに当て0.7~1センチのミシンをかけます。手前5センチ位のところでしつけぬいのぬい目をほどき、押えの向こう側までスライダーをさげます。そして残りの部分をぬいます。

つき合わせファスナーつけ

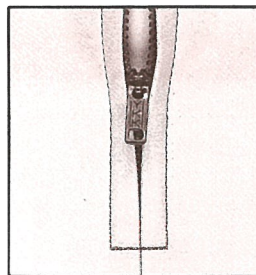
使う模様

----- 直線

使う押え



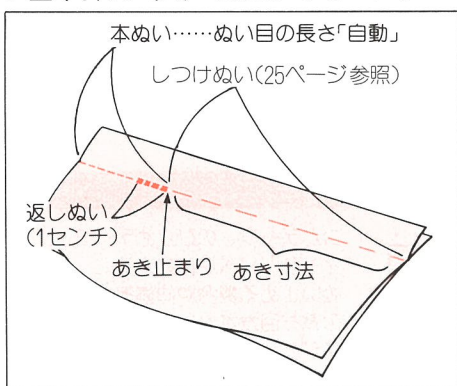
ファスナー押え (B)



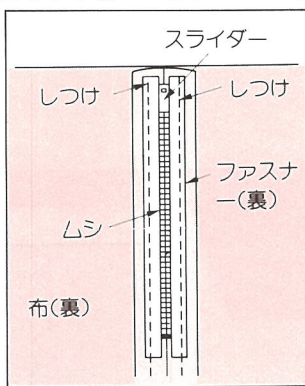
バック、クッション、カバー類に使われるファスナーつけの方法です。

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

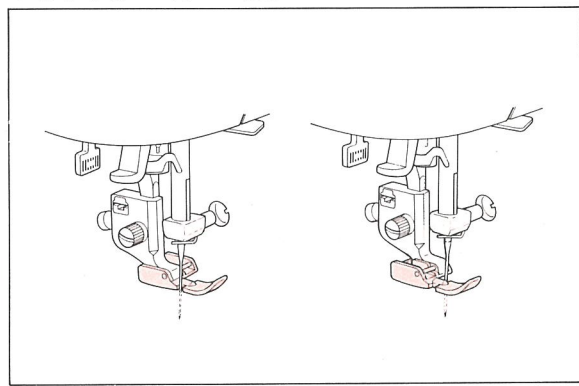
1 基本押え (A) を使ってぬいます



2 ファスナーをしつけます



3 ファスナー押え (B) をセットします

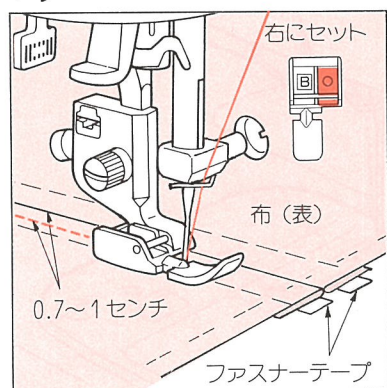


ぬいしろをわり、ぬい目線とファスナーのムシの中心を合わせて表まで手のしつけで止めつけます。スライダーは上に倒します。

ファスナーの左側をぬうときは押えの右へセットします。右側をぬうときは左へセットします。

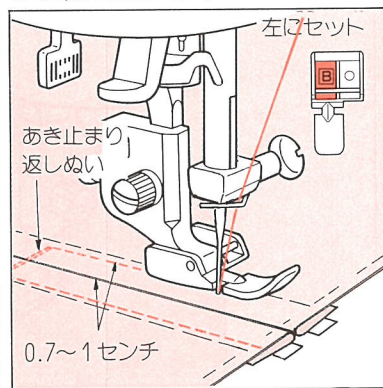
左側をあき止まりからぬいま

4 す



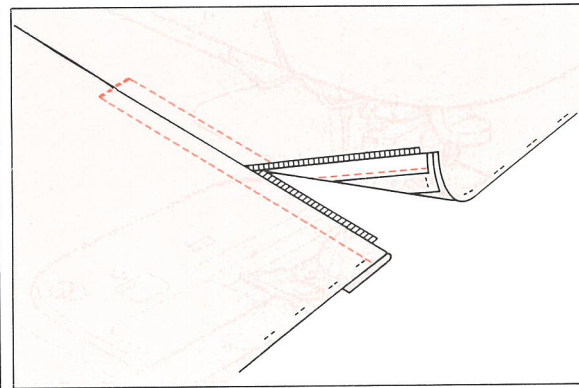
ぬい目から0.7~1センチはなして、あき止まりより上に向かってミシンをかけます。

5 右側をぬいます



あき止まりを返しぬいで丈夫にぬい止めもう一方も0.7~1センチはなしてミシンをかけます。

6



しつけぬいの部分のみほどこきます。

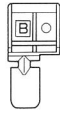
小物づくりのファスナーつけ

使う模様



直線

使う押え

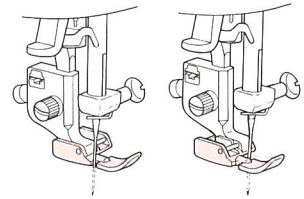


ファスナー押え (B)

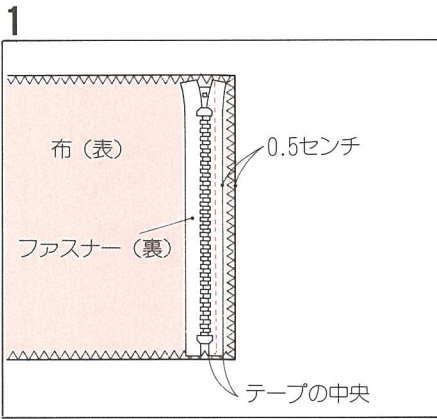
注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



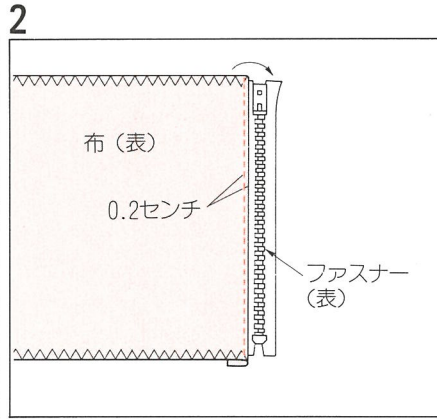
ファスナーテープが見えるつけ方でポーチやバッグに使われる方法です。



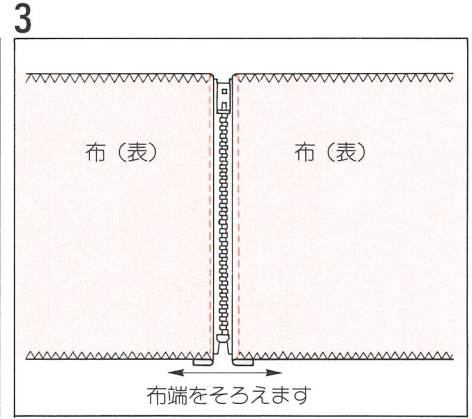
ファスナーの左側をぬうときは押えの右へセットします。右側をぬうときは左へセットします。



1 裁ち目かがりをした布地から0.5センチずらして裏にしたファスナーの片側テープの中央にミシンをかけます。



2 1.でぬったところからファスナーをかえして、その上から0.2センチのところへミシンをかけます。



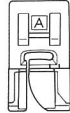
3 もう片方の布地も1, 2と同じようにぬいつけます。

三点ジグザグ

使う模様

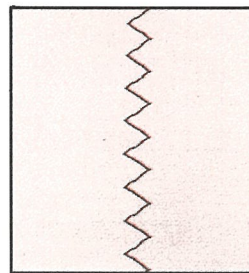


使う押え



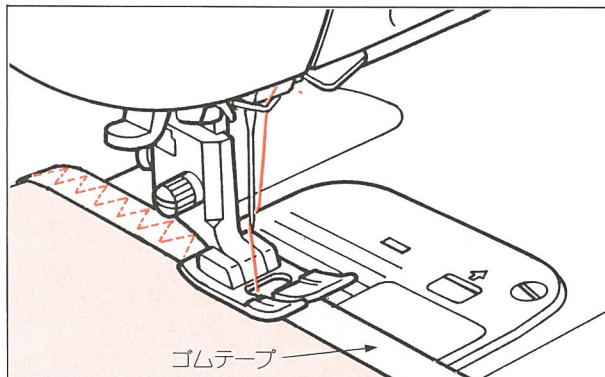
基本押え (A)

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



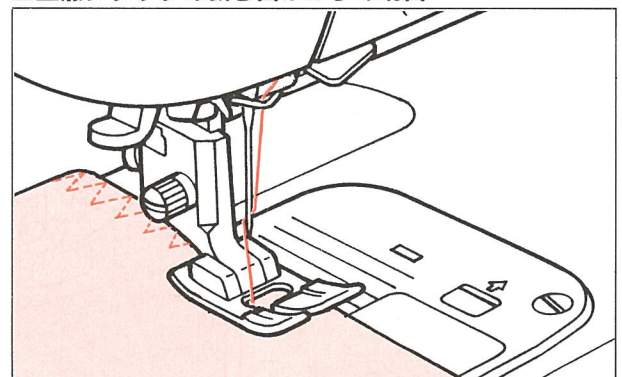
ゴムテープ、のび止めテープ、インサイドベルトを布地にぬい止める場合や伸縮素材の裁ち目かがりなどに、三点ジグザグぬいを使います。

■三点ジグザグのテープつけの場合



押え調節レバーを「よわい」にし、ゴムテープは前後にのばしながらぬいます。

■三点ジグザグの裁ち目かがりの場合



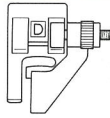
ほつれやすい布、伸縮性のある布に利用します。布端に針が落ちるようにぬいます。

ブラインド ステッチ まつりぬい

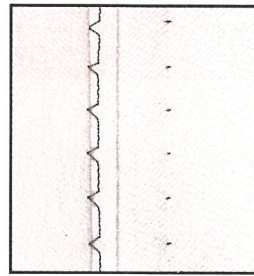
使う模様



使う押え



ブラインドステッチ
押え (D)



スカートやワンピースなどの
すそのまつりがかんたん
にできます。

注意 押えの交換のときは
電源スイッチを切ってください。

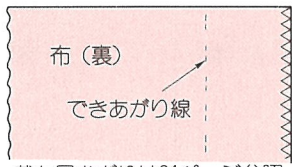
裁ち目がかりをして布地を折ります

1. 裁ち目がかりをします。

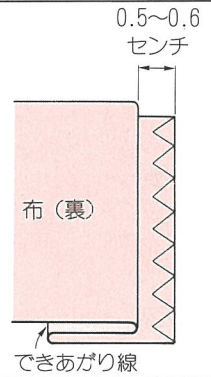
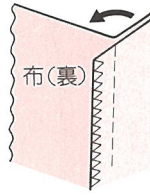
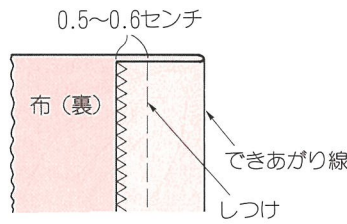
2. しつけをします。

3. しつけより折ります。

4.



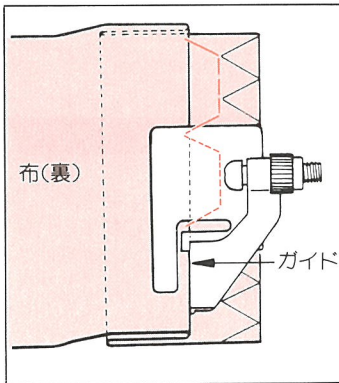
・裁ち目がかりは21ページ参照
・しつけぬいは25ページ参照



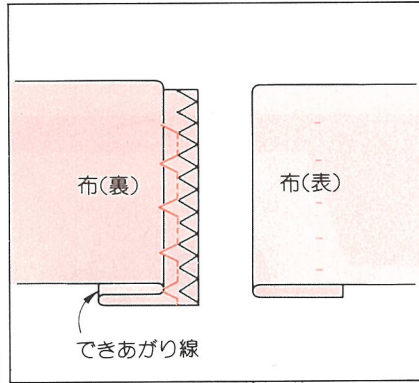
折り山を押えの

1 ガイドにあててぬいます

2 布地をかえします



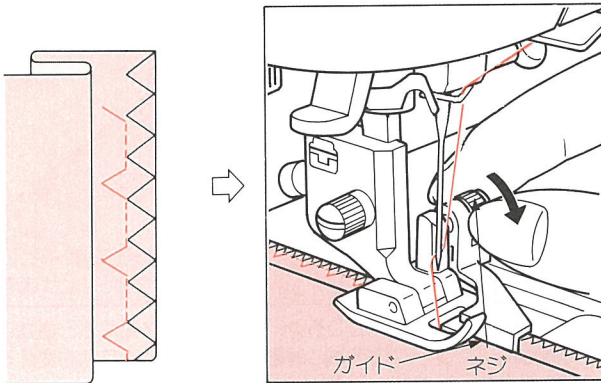
押えのガイドを折り山にピッタリ
あててぬいます。



布地をかえて、できあがりを整えます。

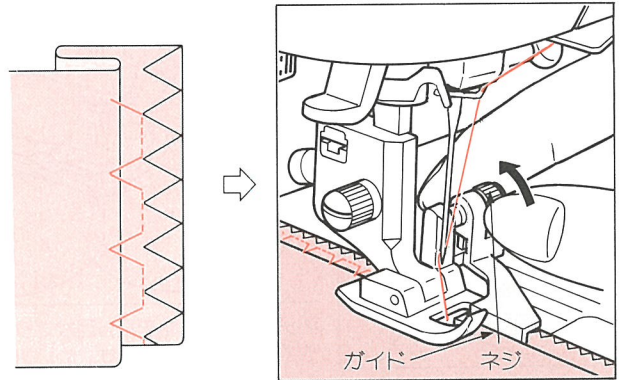
●ブラインド ステッチ押えのガイド調節方法

■折り山にぬい目がかからない場合



ネジを手前に回しますとガイド
は右へずれます。ずれたガイドに
布の折り山をピッタリつけます。

■折り山にぬい目がかかりすぎた場合



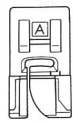
ネジを向こう側に回しますと
ガイドが左へずれます。ずれた
ガイドに布の折り山をピッタリ
つけます。

伏せぬい

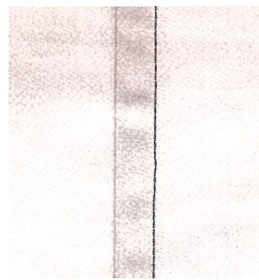
使う模様



使う押え



基本押え (A)



丈夫できれいに端の仕上げを
始末するときに使います。

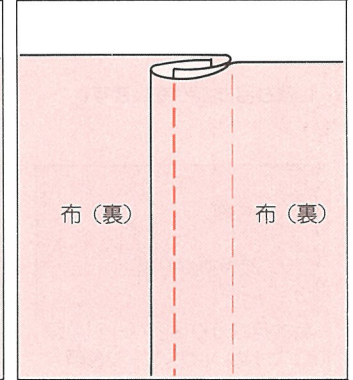
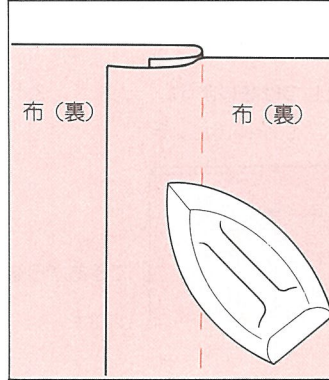
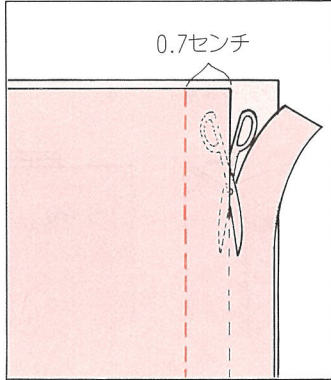
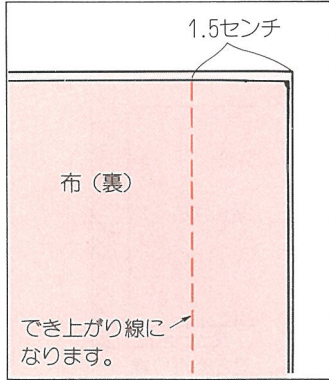
注意 押えの交換のときは
電源スイッチを切ってください。

1 布地を合わせてぬいます。

2 ぬいしろの半分を裁ち落
します。

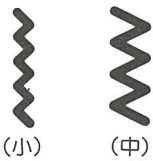
3 でき上り線を軸に布地を
広げ2枚一緒に倒してア
イロンをかけます。

4 短いぬいしろを長いぬい
しろでくるみ、折り山の
端をぬいます。



アップリケ

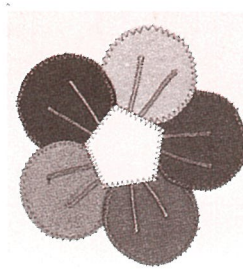
使う模様



使う押え



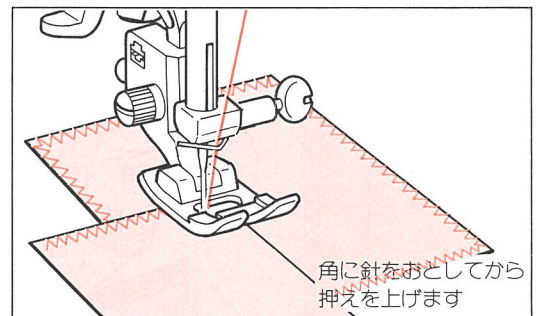
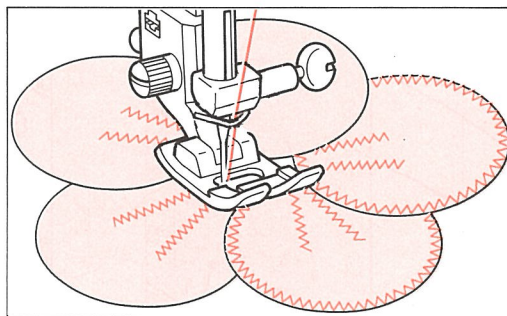
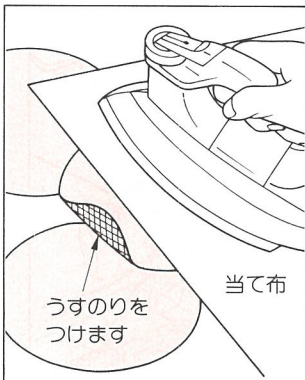
基本押え (A)



市販のアップリケ布や、自
分で切り抜いたアップリケ
布を丈夫に、簡単にぬいつ
けられます。

注意 押えの交換のときは
電源スイッチを切ってください。

アップリケ布を止めます



アップリケ布を正確にのりづけ、
またはしつけ止めて当て布をあ
ててかるくアイロンで押えます。

アップリケの布端を裁ち目ががりと同じ要領で、ジグ
ザグぬいでぬいつけます。ぬい始めと終りは返しぬい
スイッチを押して止めぬいをします。カーブの強いも
のは振り幅(小)のジグザグ模様を選びます。

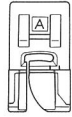
急角度のところや、布地の方向を変えるときは、アッ
プリケの布端に針をおとした状態で方向を変えるよう
にします。

いせ込み ギャザーの寄せ方

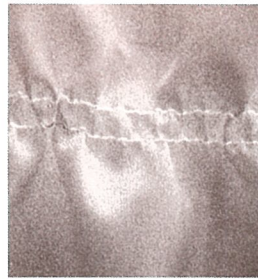
使う模様

----- 直線

使う押え



基本押え (A)

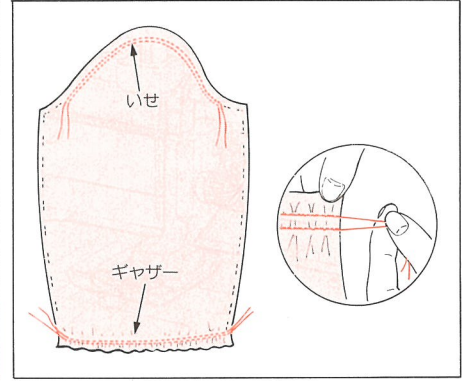
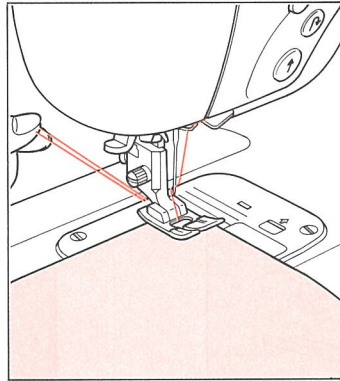
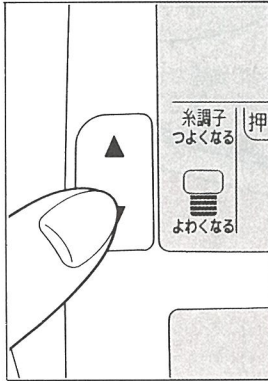
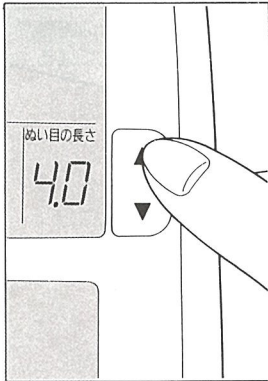


いせ込みをする場合：
袖山やスカートのウエストなど
外から布地のちぢめさせたのが見えない
ものに。

ギャザーを入れる場合：
袖口やヨークなどに。

注意 押えの交換のときは
電源スイッチを切ってください。

- ぬい目の長さを
1 3.0 ~ 4.0 にします。 2 上糸をよわくします。 3 して2本平行にぬいます。 4 下糸を手で引いて布地をちぢめます。



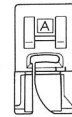
ぬい終りは5センチ以上布地を
引き出して、糸切りボタンを押して
ください。

ピンタック

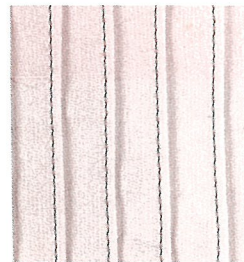
使う模様

----- 直線

使う押え



基本押え (A)

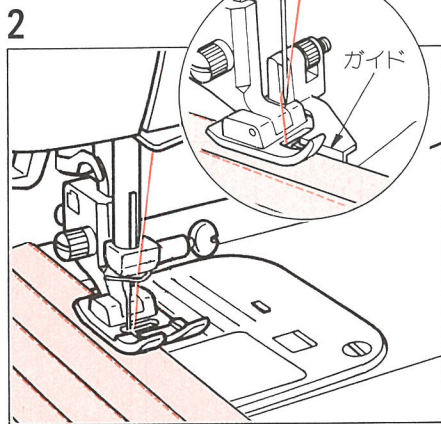


ブラウスの前身頃やエプロ
ンの装飾などに利用します。

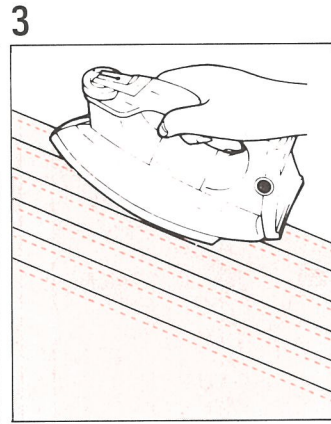
注意 押えの交換のときは
電源スイッチを切ってください。



1 ピンタックの折り山
をアイロンで折り整
えます。



2 折り山を伸ばさないようにぬいます。
(ブラインドステッチ押えのガイド
を利用するときれいにできます。)



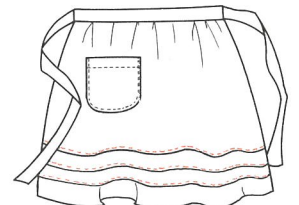
3 ぬい終わったら片返しにして、アイロ
ンをかけ、整えます。

応用例

●ブラウス

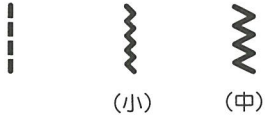


●エプロン

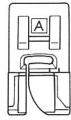


キルティング

使う模様



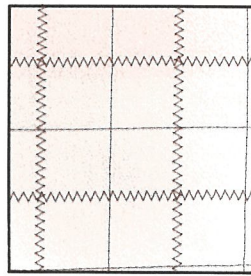
使う押え



基本押え (A)

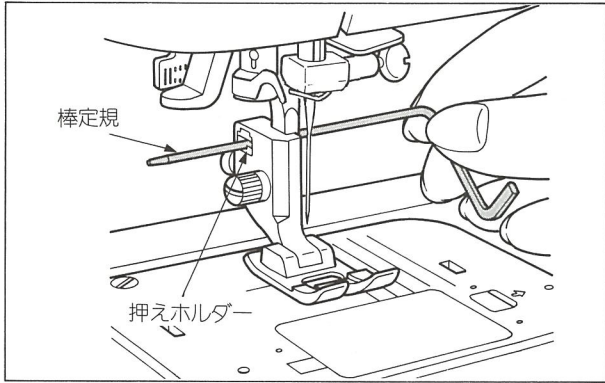
注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



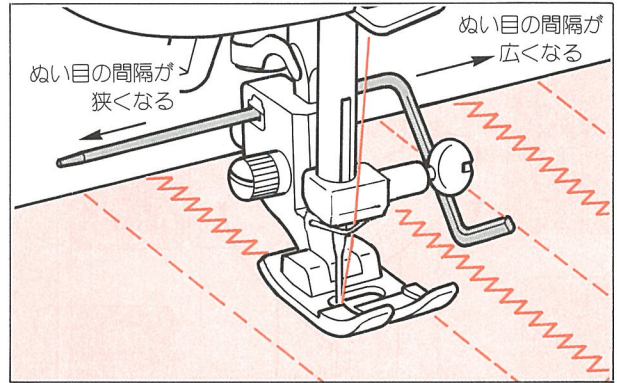
2枚の布地を合わせ、平行にぬい目を入れていく方法で、布地の間に綿などを入れると、防寒や、装飾に役立ちます。

●棒定規のとりつけ方



押えホルダーのみぞに棒定規を差し込みます。

●ぬい方



棒定規の先でぬったぬい目をたどりながらぬいます。左右の間隔が自由に調節できます。

パッチワーク

使う模様



ワンポイント

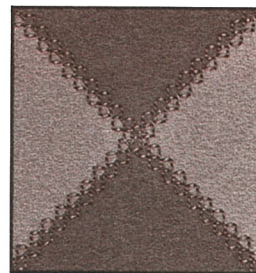
使う押え



基本押え (A)

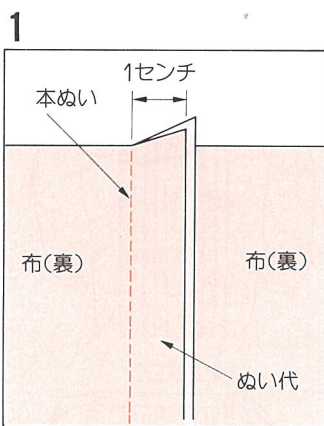
注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

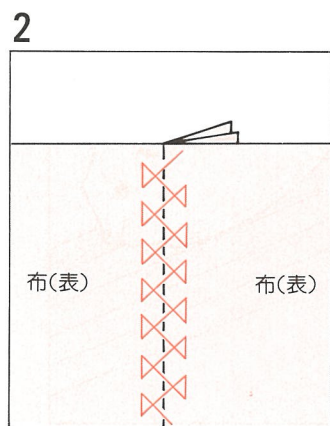


模様ぬいを使っていろいろな布をはぎ合わせます。残り布などを活用し、小物類や室内装飾に応用します。

●重ねはぎ

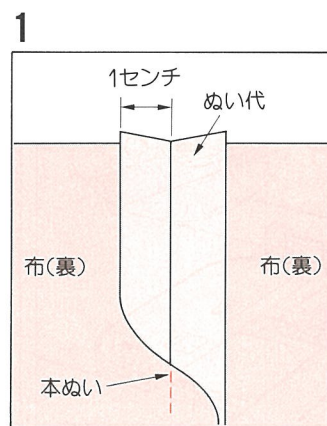


2枚の布地を中表に合わせ、本ぬいした後、ぬいしろを片返しにします。

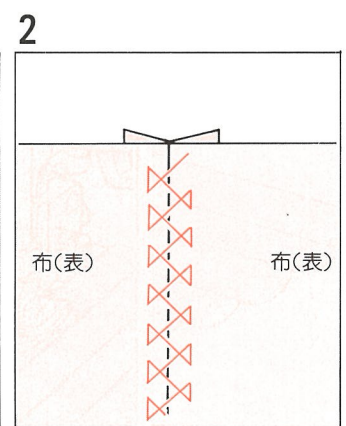


両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

●割りはぎ



2枚の布地を中表に合わせ、本ぬいした後ぬいしろをきれいに割ります。



突き合わせになっている表布から両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

円ぬい

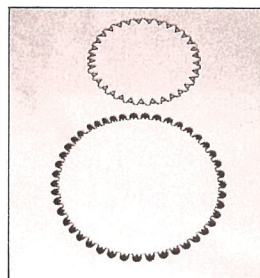
使う模様



使う押え



模様押え (T)

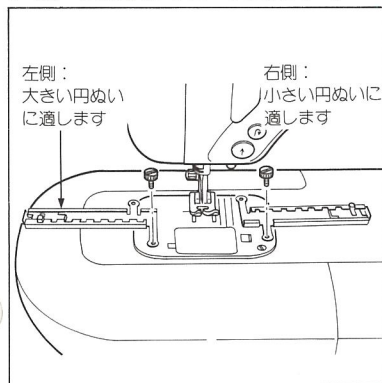


コースターやワッパンの外周に応用します。
半径3~10センチの円ぬいができます

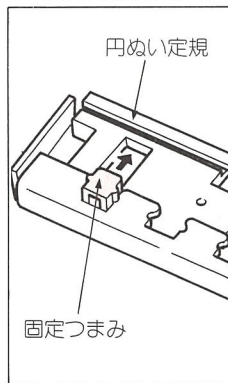
※模様の選び方は40~43ページ参照。
※模様を選んだあとと連続を押します。

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

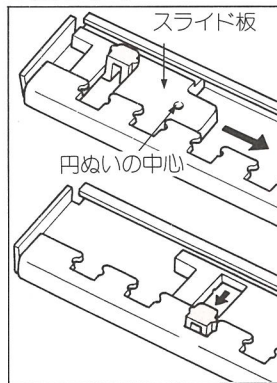
円ぬい定規を針板の左又は右側へ付属のネジでとめます



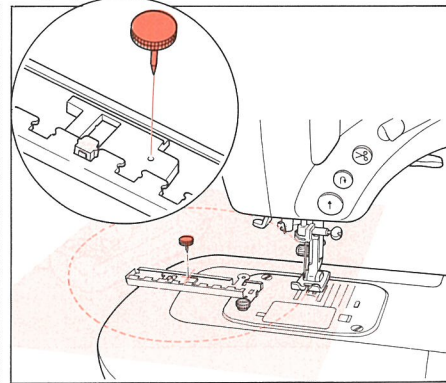
固定つまみを中央に移します



円ぬいの大きさを決めスライド板を移動し固定します



布地を入れて付属のビヨウでとめます



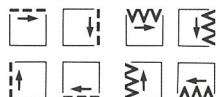
※ぬい始めとぬい終りの糸は10センチ位長くしてぬい針で表側の糸を裏側にして結びます。

横送り (四方ぬい)

使う模様



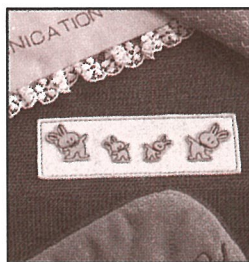
直線 ジグザグ



使う押え



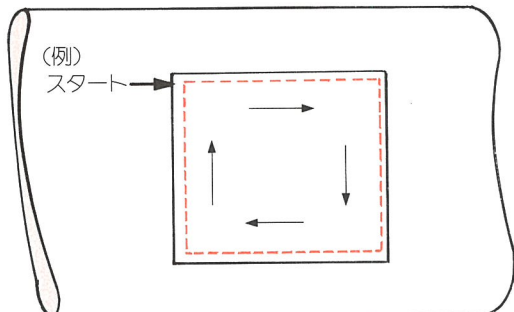
模様押え (T)



出来上がった袖やズボンの筒にワッパンをつける場合に使います。

※模様の選び方は40ページ参照。

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



- ワンポイントを3回押します。
- 直線ぬいとジグザグぬいの好みの方を選びます。
- スタート位置を決めて

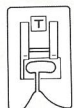
- (例：直線)
- を押し、角までぬいストップさせます。
 - を押し、ぬいます。
 - 次にを!
 - 最後にを押して一周ぬわれます。

スカラップ 貝がらぬい

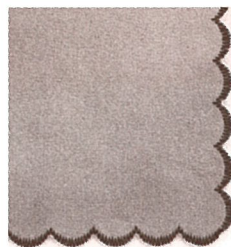
使う模様



使う押え



模様押え (T)

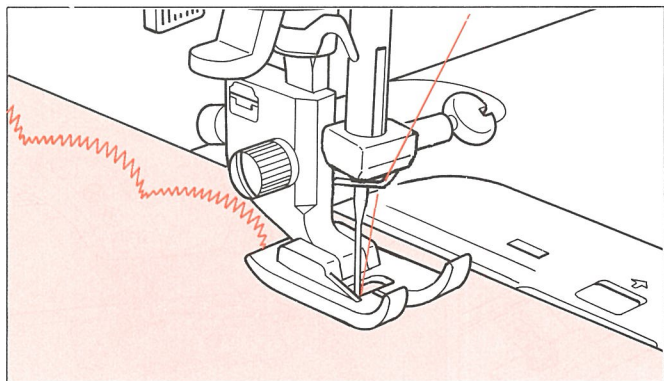


テーブルクロスやブラウスの衿など
ふち飾りに使います。

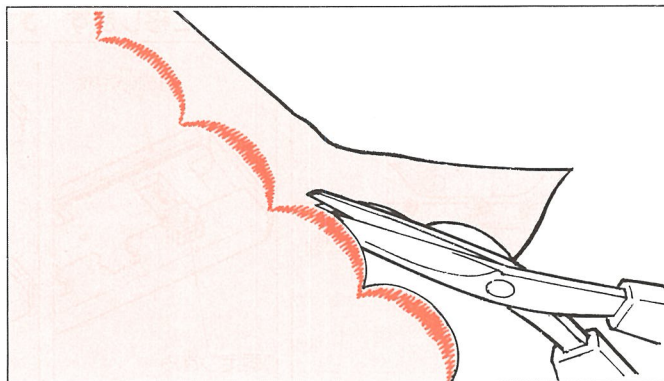
※模様の選び方は40、42ページ参照。

注意 押えの交換のときは
電源スイッチを切ってください。

1 布端に模様がかからないように端を残してぬいます。



2 糸を切らないようにぬい目にそって切ります。



※テーブルクロスやランチョンマットは の が大きいスカラップになります。

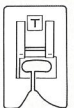
※ブラウスの衿やハンカチには の が小さいスカラップになります。

アイレット

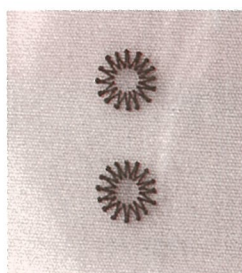
使う模様

キーを押して を選びます。

使う押え



模様押え (T)

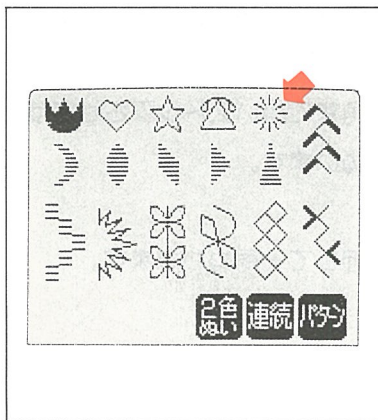


ベルトなどの穴かぎりに
使います。

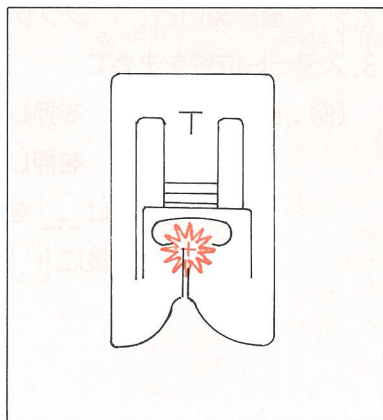
※模様の選び方は42ページ参照。

注意 押えの交換のときは
電源スイッチを切ってください。

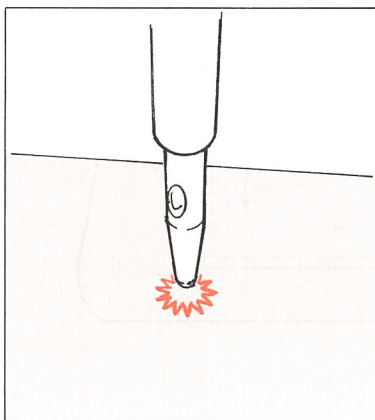
1 の模様を選びます。



2 針落ち位置を確認して
ぬいます。



3 パンチで穴をあけます。

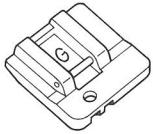


別売 押え・コントローラーのご紹介

ホームソーイングをさらに楽しくする……別売品

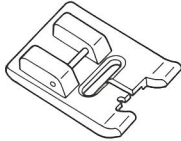
このミシンのお買い上げ店、または当社サービスセンターでお求めください。

●コンシール押え



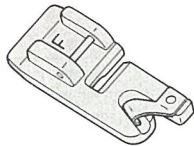
コンシールファスナーつけに便利です。

●手動BH押え



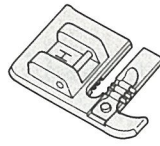
ぬいしろの重なっている部分のボタン穴かがりにご利用ください。

●三つ巻き押え



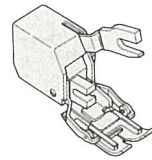
シャツやブラウスの裾、フリルやスカーフの縁の始末などに使います。

●ひもつけ押え



毛糸、ししゅう糸、穴糸などのひもつけに使います。子供服やエプロン、インテリア小物に応用します。

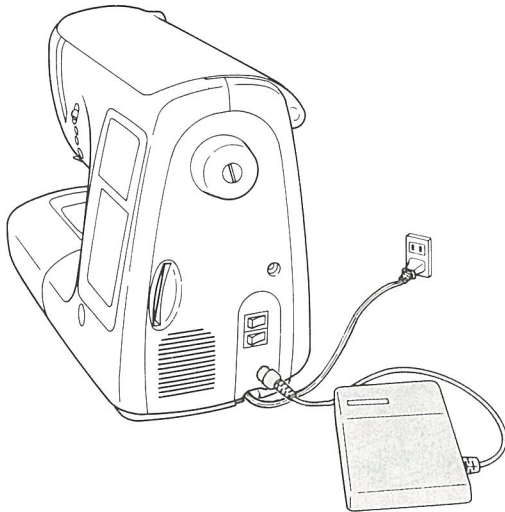
布づれ防止に…… 上送りアタッチメント



一般にミシンで送りにくい素材に使います。

H2L-008N ソフト標準装備

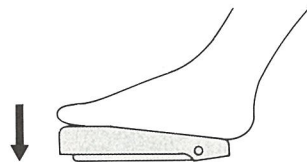
コントローラーを使いますと足の操作でスタート・ストップからスピードコントロールもできます。



コントローラーのプラグをミシンのコンセントに差しこみます。

注意 ミシンにセットしてあるコントローラーの上に物をのせないでください。

- ※コントローラーを使うときは、スタート・ストップスイッチはストップのみ有効です。スピードコントロールつまみは使えません。
- ※刺しゅう機を使うときは、コントローラーは使えません。



コントローラーを踏みますと、ミシンがスタートし、速度も調節できます。足をはなしますと、ミシンは止まります。針は布に入ったまま止まります。

返しぬいをするときは、返しぬいスイッチを押します。

別売押え

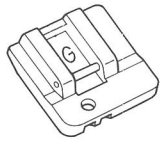
コンシール押え/手動BH押え

コンシール押え

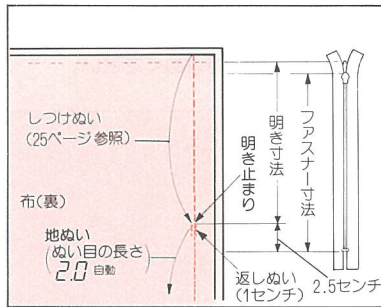
ファスナーあき寸法をたしかめ
1 基本押え(A)でぬいます。

2

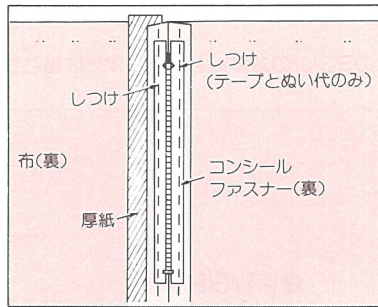
3



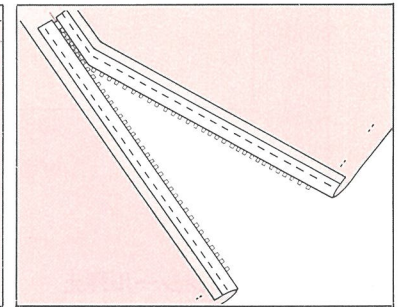
使う模様



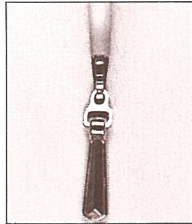
布地を中表に合わせて布端よりあき止まりまでしつけぬいでぬい、あき止まりからぬい目を(2.0)に変えて1センチ返しぬいをし、所定の位置までぬいます。ぬいしろをきちんとわります。



ぬい目線の上にコンシールファスナーの中心をのせて、ぬいしろと表布の間に厚紙を入れ、ぬいしろとファスナーテープを両側とも手のしつけでぬい止めます。しつけが終わったら厚紙をとります。



2図のあき止まりまでぬったしつけぬいをほどこき、ファスナーを開きます。

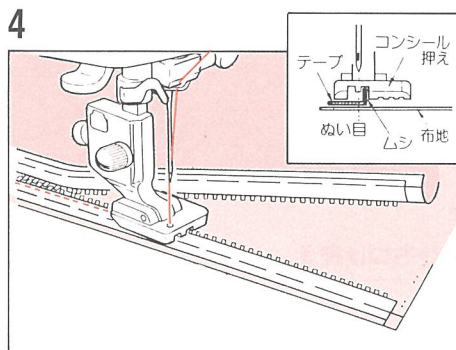


ファスナーのぬい目が布地の裏に出ないので、つき合わせの状態であきの始末ができます。

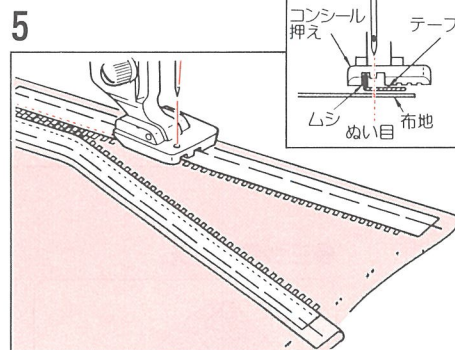


注意

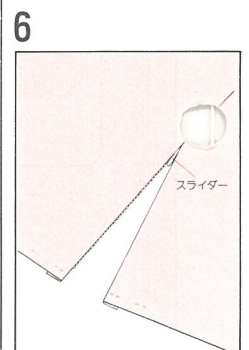
押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



一方のぬいしろをファスナーのミシを押えのみぞに合わせ、指でミシを立てるようにして、ミシのきわにあき止まりよりミシンをかけます。



もう一方のぬいしろも同じ方法でぬい合わせます。(ファスナーテープのあき止まりから下の部分はぬいしろにぬいつけられずに残ります。)



スライダーを中より出し、上に引きあげます。

手動BH押え

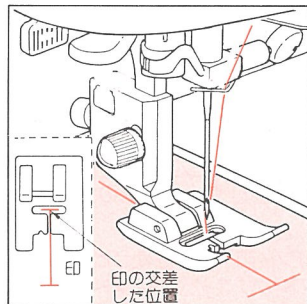
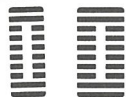
1

2

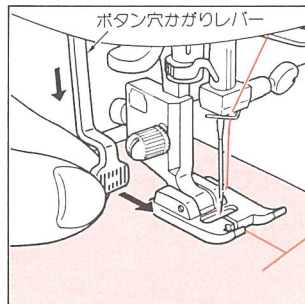
3



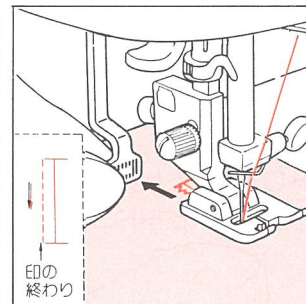
使う模様



布地にボタン穴かがりの印をつけます。針を上げたまま印の交差した位置を押えの針穴の中心に合わせて、押えをさげます。



ボタン穴かがりレバーをさげて、軽く手前に引き、スタートボタンを押してぬいはじめます。
●左側の直線ぬいがはじまります。

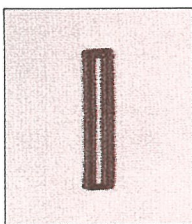


印の終わりに針がでたとき、ボタン穴かがりレバーを向こう側に軽く押しします。
●バックで左側のぬいがはじまります。

4

5

6

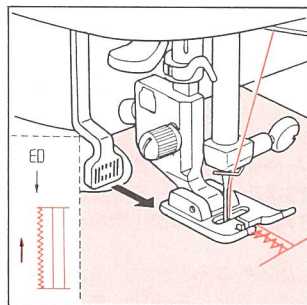


厚地の布を使った短冊あきや台杉の部分に穴かがりをする場合に用います。

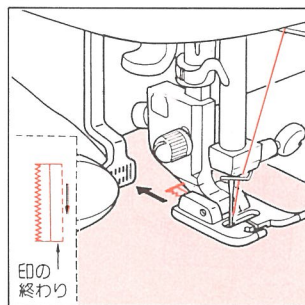


注意

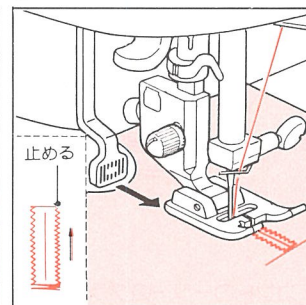
押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



最初の印に針がきたとき、レバーを軽く手前に引きます。
●右側の直線ぬいがはじまります。



印の終わりに針がでたとき、レバーを向こう側に押しします。
●手前のカン止めをぬってバックで右側のぬいがはじまります。



最初の印に針がきたとき、レバーを軽く手前に引くとカン止め、止めぬいをして止まります。

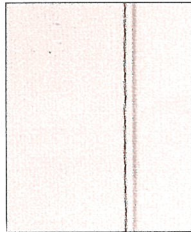
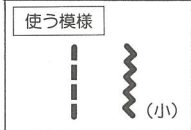
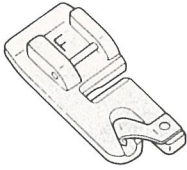
ご注意

1. 布がレバーに触れないようにします。レバーが押されるとカン止めに切替わってしまいます。
2. 失敗したときは、ミシンを止め、模様選択キーをもう一度押しすると、最初から、ぬうことができます。

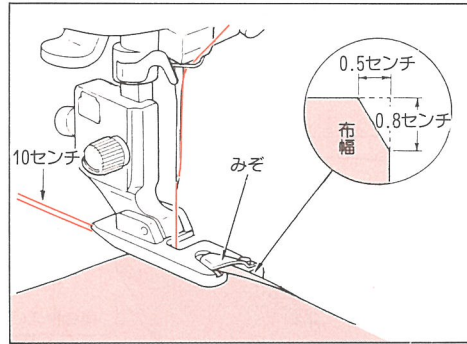
三ツ巻き押え/ひもつけ押え/上送りアタッチメント

三ツ巻き押え

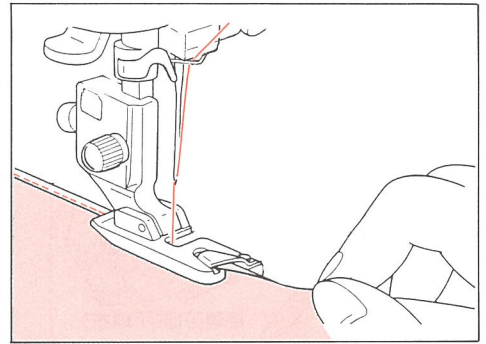
注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



布端を三つ折りにしながらぬっていく方法で、シャツやブラウスの裾、フリルやハンカチの縁の始末などに使います。



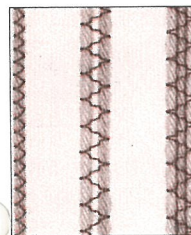
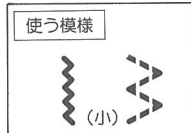
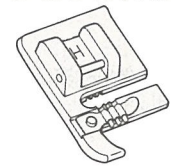
布地を巻きこみややすくするため角を少し切り、押えのうず状のみぞの中に、布地を針がとどくところまで入れてから針をおろして押えをさげます。



上下の糸端を左手で引き、手ではずみ車を3~4回まわし、正しく巻きこまれたら、右手の親指と人さし指で布地をつまみ、常に適量がくり入れられるようにしてぬいます。

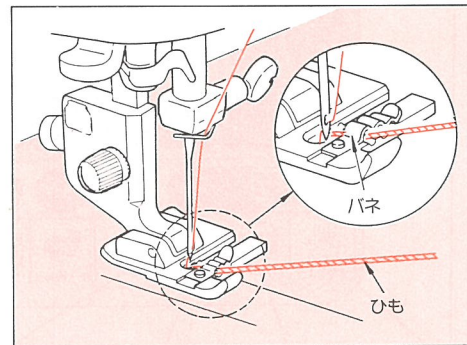
ひもつけ押え

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



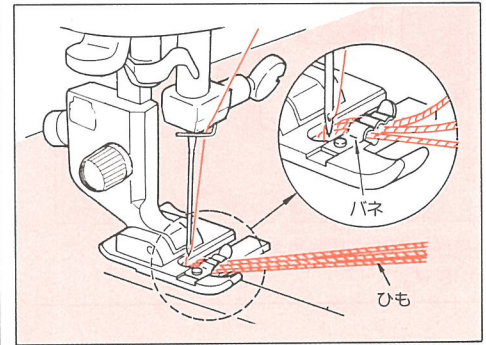
毛糸、ししゅう糸、穴糸などのひもを使い、子供服やエプロン、インテリア小物に应用します。1本から3本のひもつけができます。

1本つけ
1本の場合は左端にひもを通し、ひもの先端を押えの裏にあるみぞにはめてから押えをさげます。



振り幅(小)のジグザグ模様でぬい止めます。ぬい始めとぬい終りに返しぬいボタンを押して止めぬいをします。ひもは布地の裏に引き出して結び切ります。

3本つけ
3本の場合は全部にひもを通し、ひもの先端は1本の場合と同じように押えの裏のみぞにはめて押えをさげます。

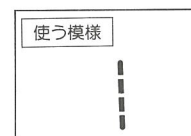
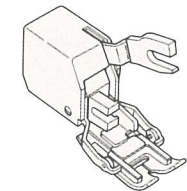


三点ジグザグの模様でぬい止めます。1本の場合と同じように止めぬいをして、ひもを布地の裏に出して結び切ります。
※2本つけの場合はひもを押えの両端にセットします。

布づれ防止に…… 上送りアタッチメント

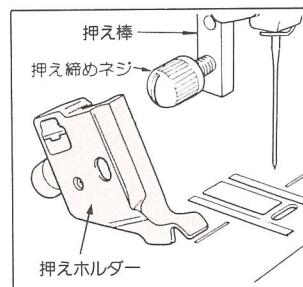
直線ぬい(たて送り)だけにお使い下さい。
※左右送り直線・ジグザグ・模様ぬいには使わないでください。

注意 押えホルダーや上送りアタッチメントの取り付け取り外しには、電源スイッチを切ってください。



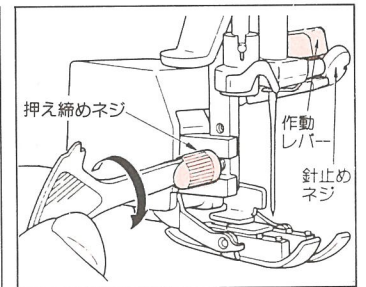
一般にミシンで送りにくい素材(ニット、ジャージー、ビニールクロス、人工皮革、皮など)に使います。滑らかな送りで布ズレを防ぎ、きれいなぬい上りになります。

押えホルダーをはずし
1ます。



押え棒をあげて押え締めネジをはずし、押えホルダーをはずします。

上送りアタッチメントを
2とりつけます。



作動レバーの二また部分を針止めに入れ、とりつけ部を押え棒にはめこみ、押え締めネジをしつかりしめます。

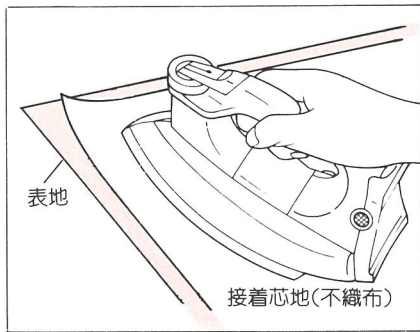
※ぬい速度はゆっくりから中ぐらいでぬいます。

※ニット、ジャージーなど伸縮性のある素材は押え調節レバーを、「よわい」にします。

大型もよう/モンタージュ/ワンポイント /文字をぬうには…

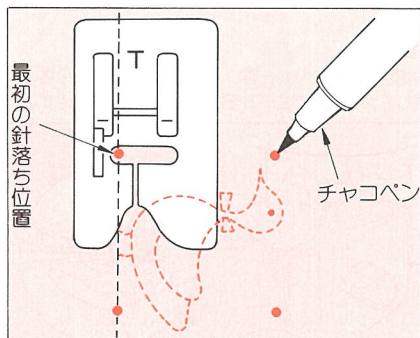
ぬう前の準備

- きれいに大型模様をぬうためには芯地をはり、ためしぬい(45ページ参照)をしましょう。



裏面に接着芯地(不織布)をアイロンで接着させます。(アイロン温度は低温~中温です)
※不織布の接着芯地は仮接着タイプを使います。

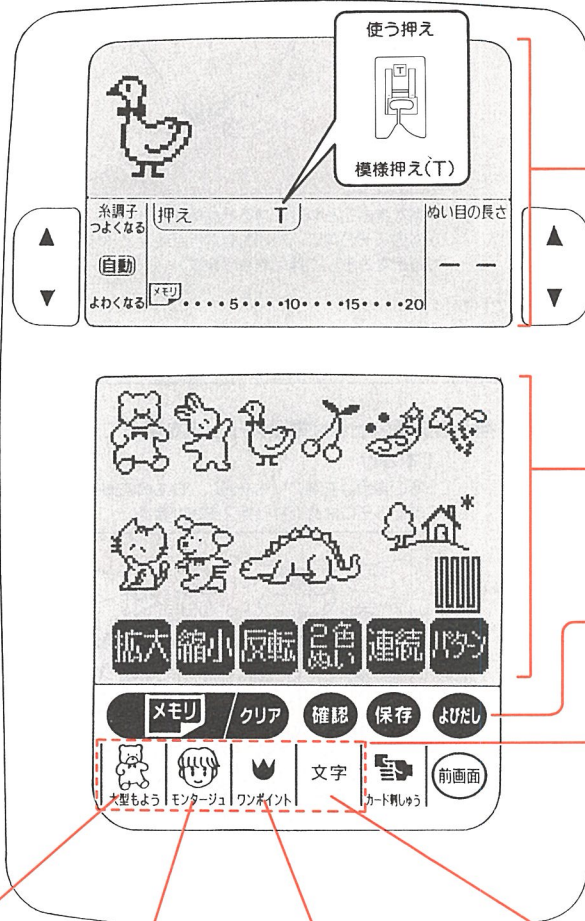
- 付属のステッチガイドシートで、布地に印をつけますと、模様の配置が決まります。



模様は筒ぬいでもぬえるよう横向きになっています。

模様の選び方

1. 文字 | 4つのうちお好みのキーを押します。
2. 下画面に現れた模様と表示を指で押します。
3. 上画面に表示された模様をぬうことができます。



上画面：
画面上に現れた模様をぬうことができます。

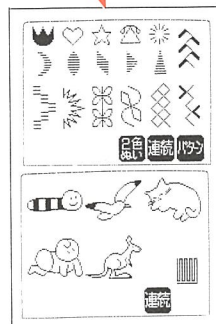
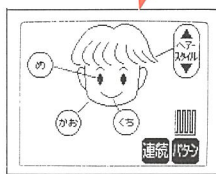
下画面：
画面上の模様や表示を指で押しますと、上画面に表示されます。

操作キー

模様選択キー：



同じ模様選択キーを押すごとに(モンタージュ以外)下画面が変わります。



●下画面の表示のはたらき

下画面表示キー	ぬえる模様(例)	上画面表示
	<p>2色ぬい可能模様です。</p>	
		<p>枠が表示します</p>
	<p>たてがき → 横にぬり</p>	<p>たてがき</p>

※上記のキーで、もとに戻すには同じキーをもう一度押します。

●操作キーのはたらき

操作キー	はたらき
	 模様を記憶します。 20個の模様が記憶できます。 記憶されると横線は右に移動します。 メモリ...5...10 記憶するごとにマークが右に移動します。
	記憶した模様を取り消します。 記憶した模様を一度押すごとに後ろから順に消して行きます。1秒以上押すとオールクリア(すべてが消える)になります。
	多くの模様を記憶したとき、このキーを押すごとに記憶された最初から見るすることができます。
	を押してから、このキーを押すと保存できます。電源を切っても記憶されています。新しい模様を保存すると、以前に保存した模様は消えます。
	保存された模様を呼び出すキーです。
	下画面の上にいくつもある画面で前の画面を呼び出すキーです。

※ このキーは刺しゅう機を使ったときに使います。

模様ぬいで
しんせつメッセージが出たとき……

もようを選んでください

下画面から模様を選んでください。

この操作はできません

キーを押しても機能がないとき。

これ以上
メモリメモリできません

20個以上の模様を記憶しようとしたとき。

もようを保存中です

キーを押したとき。

もようを呼び出し中です

キーを押したとき。